令和４年度第１１回地域連携推進機構運営会議

議事要旨

日　時: 令和４年 12 月 15 日（木）　10：00～11：35
場　所：第二会議室
出席者：牛窪 潔（機構長）、竹村 明洋（副機構長）、背戸 博史（地域共創企画室長）、柴田 聡史（地域共創企画室 准教授）、小島 肇（地域共創企画室 准教授）、畑中 寛（地域共創企画室 特命准教授）、平良 喜彦（総合企画戦略部長）、下地 孝之（総合企画戦略部 地域連携推進課長）
欠席者： なし
陪席者：島袋　真澄（研究企画室 主任 URA）、稲福 太一（課長代理）、新城 伸幸（企画係長）、嵩元 真樹子（地域連携推進係長）、根間 友紀乃（企画係員）

＜審議事項＞

審議１　令和６年度運営費交付金「教育研究組織改革分」の構想案について

牛窪機構長から、資料（審議 1）に基づき、令和６年度運営費交付金「教育研究組織改革分」の構想案について説明があり、意見交換を行った。各委員から下記のような意見があった。

・現在のポンチ絵にて描かれている学びのループの表現に、各年齢層に応じた教育支援を行う旨を追加で表現してほしい。
・リカレント教育のセールスポイントを沖縄らしさとするのであれば、沖縄県で出生率が増加している現状を掛け合わせ、小中高校を対象にしている点の表現を意識的に増やし、また、専門機関の協力を得ることによって教育面を強化するとより良い構想案になると考える。
・大学の組織改革を推進することが目的の公募であると考えるので、地域連携推進機構の組織強化の色を強めるよりも地域連携推進機構に部門を作る等、組織改革に係る記載が必要である。
・全学的な巻き込み方について、沖縄の振興計画を作成する際、本学教員が定期的に集まって意見交換会を行っていた。このような集会を常設し、リカレント・リスキルについて分野横断型に情報共有や意見交換会を行い、また、必要であればプロジェクトを運営するという書き方でもよいのではないか。
・様々なプロジェクトがあるので、コワーキングスペース等を作れば、外部の方々も参画しやすいと考える。

＜報告事項＞

報告１ 沖縄未来社会創生シンポジウム 2022（OFSIS）の実施について

竹村副機構長から、資料（報告 1）に基づき、沖縄未来社会創生シンポジウム 2022（OFSIS）の開催報告があった。